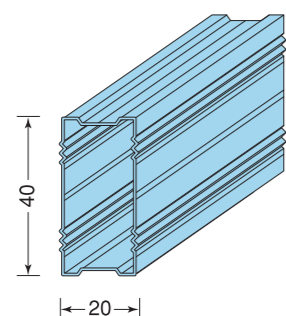


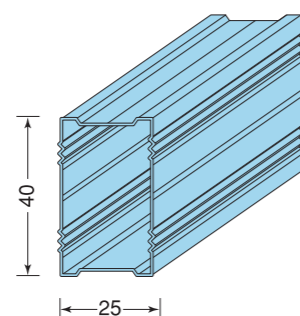
# 鋼製下地用 角スタッド材

## ■角形スタッド

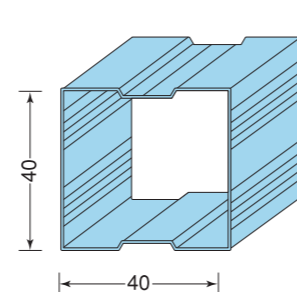
●□-4020



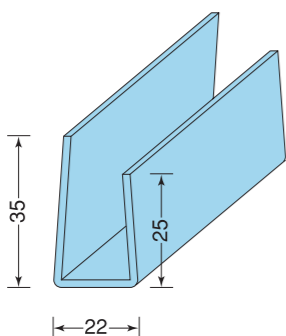
●□-4025



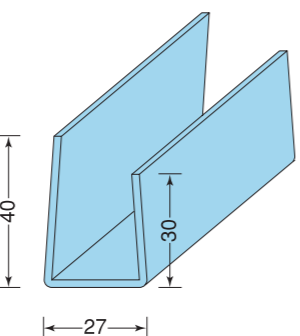
●□-4040



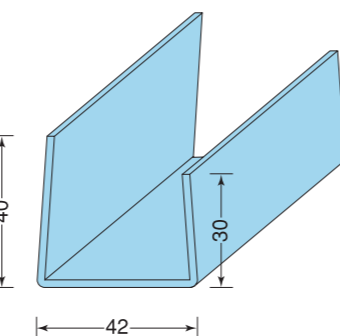
●20RN×4,000



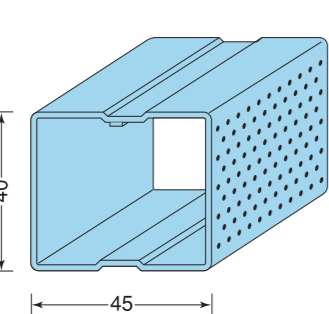
●25RN×4,000



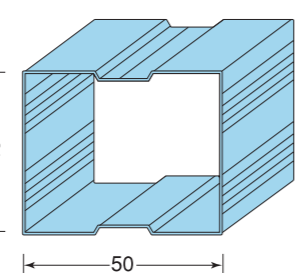
●NS40RN×4,000



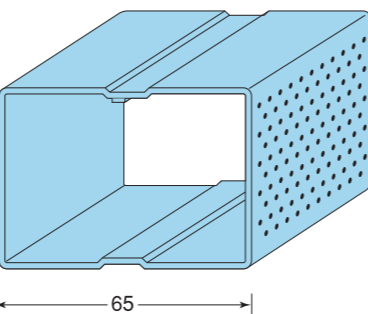
●□-4045



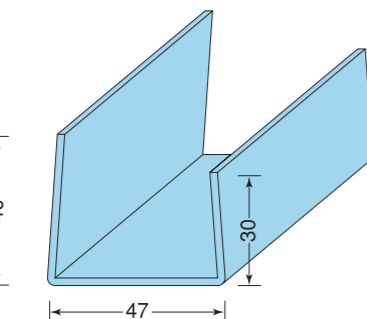
●□-4050



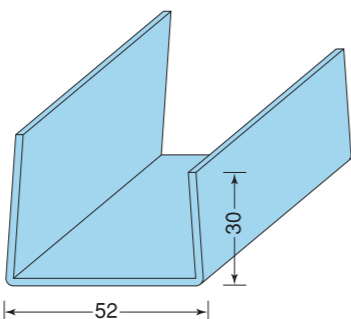
●□-4565



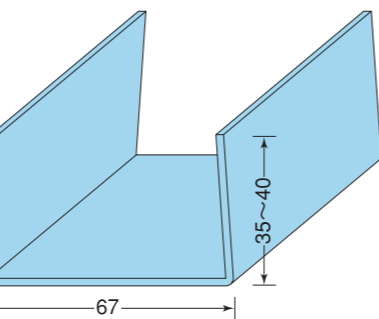
●NS45RN×4,000



●NS50RN×4,000



●65RN×4,000



単位：mm

## ■角スタッドを用いた施工例

### 角スタッドを用いた鋼製下地材の標準施工手順

標準的な施工、工程は次に示すフローチャートの通りです。



#### 1 施工前の確認

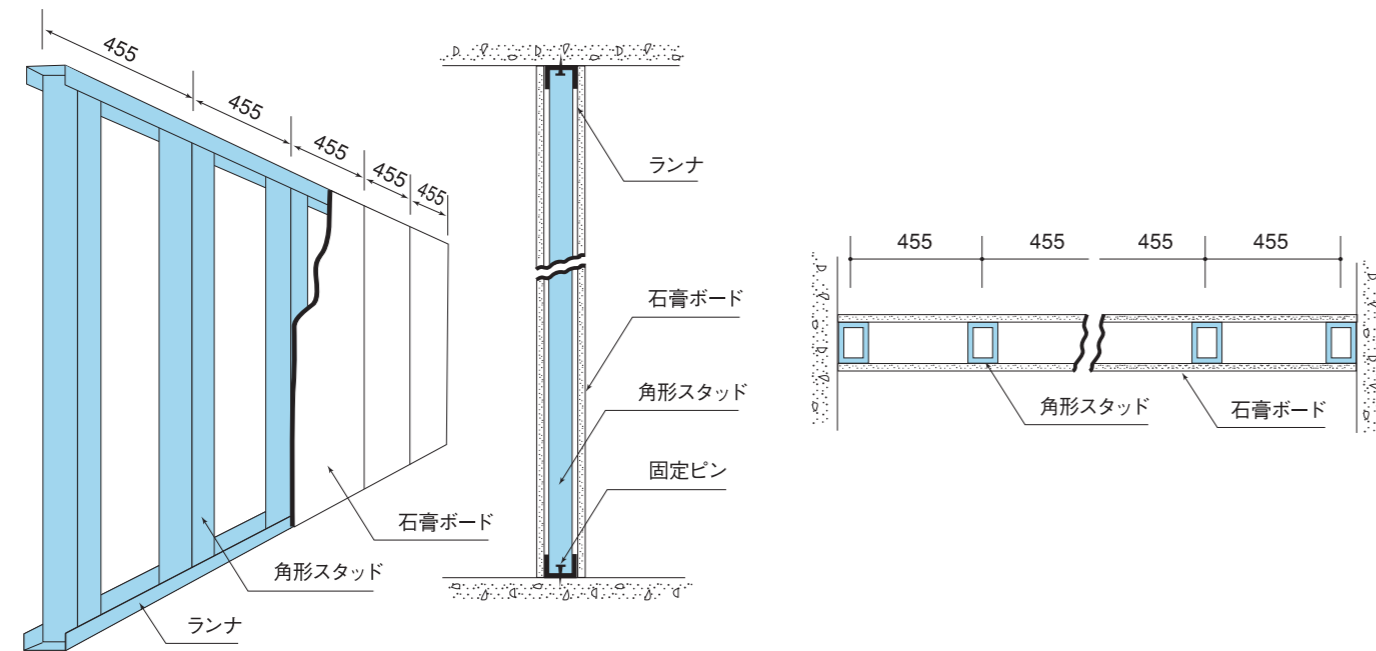
- (1) 施工に先立ち工程表、施工要領書および施工図等を必要に応じて作成し、発注者側に提出し承認を得ることを原則とする。
- (2) 施工前に施工場所の確認を行い、工程、施工範囲、各部の納まり、その他関連する工事について確認する。
- (3) コンクリートの養生はコンクリート打設後、10日以上経過していることなどを確認する。
- (4) コンクリート面(床下、梁下、壁面等)に支障となる不陸がないか、全体および各部の水平の状態を確認する。
- (5) 施工場所が完全に清掃・後片付けなど完了しているか、確認する。
- (6) 後付け方法(ランナ等の固定)により、防水層などに損傷を与えないよう、特に配慮する。
- (7) インサートの状態や割付けなど事前に確認を行う。
- (8) 部材の揚重、小運搬などの日時を確認し厳守する。

#### 2 部材の検収・荷受け・保管

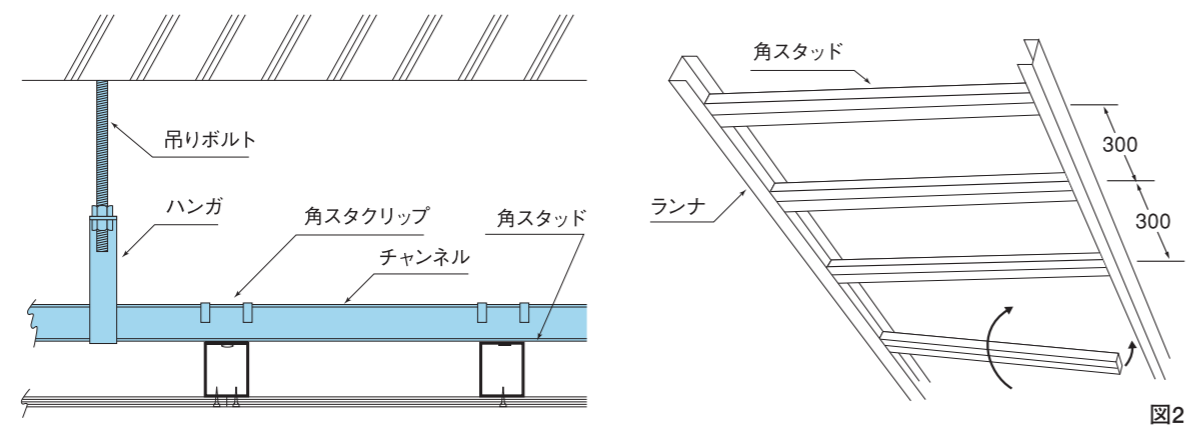
- (1) 部材の荷受け時には、納品書と照合してJIS表示や所定の種類・数量が搬入されているか確認を行う。
- (2) 部材の変形、損傷の有無の確認を行い検収する。
- (3) 保管は、次の事項により行う。
  - a. 各部材の置場の設置は、事前に確保する。
  - b. 各部材の上には重量物を載せないこと。
  - c. 衝撃を与えないこと。
  - d. 水や湿気の浸入を防ぐこと。

# 鋼製下地用 角スタッド材

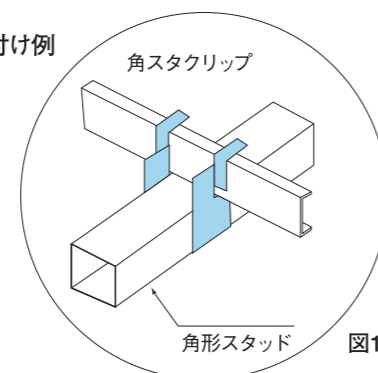
## ■角形スタッドを用いた壁下地材の標準組立図



## ■角スタッドを用いた天井下地材の標準組立図



●天井下地組立用クリップ取付け例



## ■壁・天井施工例



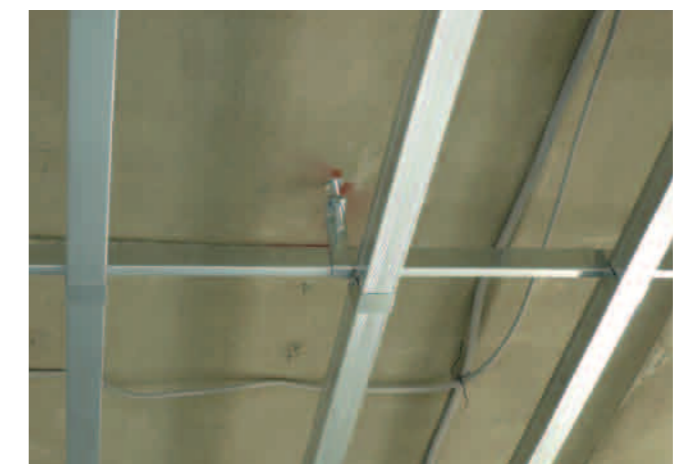
## ■壁施工例



## ■天井施工例



## ■角スタックリップ使用例



## ■角スタッド天井下地最大スパン表

角スタッド	最大スパン (mm)	ランナ
NS4020	1,300	20RN
NS4025	1,500	25RN
NS4040	2,100	NS40RN
NS4045	2,300	NS45RN
NS4050	2,400	NS50RN
NS4565	3,000	65RN

PB (9.5mm) 1層にクロス貼り7kg/m<sup>2</sup>とする。  
スタッドピッチ303mmとする。